

全国農政連推薦・県農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

## 永田町でも「百姓宣言」

### 「食の安心・安全を守るには」 「信頼を失うゆきしき事態」

大量の外国産輸入アサリが熊本県産として販売されていた産地偽装問題。熊本県の要請で県内の漁協や漁業者は2月8日から県産生鮮アサリの出荷を2カ月程停止され、2月11日以降、市場から姿を消すことになりました。今回の産地偽装に関する蒲島知事の会見では、「アサリだけでなく、熊本ブランド全体への信頼を揺るがす危機的状況であり、本県にとって、非常事態。今、直ちに偽装を根絶しなければ、熊本ブランドの未来はない」とコメントされました。

ブランド化や区別化を制度として支える産地表示は、外国産と競合する中でも国内の農林水産物の安心・安全・美味しさを産地の取り組みとして示す重要なものです。産地表示を偽ることは、国産を選びたいという消費者をだますだけではなく、真面目に取り組まれてきた産地・生産者の努力をないがしろにする極めて悪質な行為であり絶対に許せません。産地偽装は水産物にとどまらず、すべての農畜産物にとっても看過できない問題です。国内産ブランドに傷をつけるような悪質な行為は、国が徹底して取り締まりを強化し再発防止へ全力を尽くさなくてはなりません。

## 【全国のパワーを結集】

1月19日に第67回JA全国女性大会「JA女性想いをひとつにかなえよう」、2月22日には第68回JA全国青年大会「盟友よ大志を抱け〜今より攻勢！農業の未来へ〜」が開催されました。本来であれば、全国各地より多くの女性部・青年部の皆さまが東京に集結し、活気溢れる発表や盛り沢山のイベントが行われるところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、昨年度に引き続きYouTube配信の形式で開催されました。活動にも制約があるなかでしたが、各組織の活動報告を受け大きなパワーを感じました。



▲堀内ワクチン担当大臣にJA厚生連のワクチン接種対応状況を説明

全国・県農政連推薦  
参議院議員山田としおの

## 農政問題に斬り込む

### 「地域に根差すJAの 取り組みを考える」

私の今後の課題としてJAの活動の発展強化について考えなければならぬと思っております。それは私が支えられて活動している基盤であり責務であると感じています。

改めて協同の取り組みを基礎とするJAが追い込まれている実情や、市場原理主義者の主張が強まってきたという社会の流れについて、例えば「JAであれば更なる過剰化のもとでJAとしての需給調整の効果を実現できずに、自由な生産流通のもとで成長淘汰していく」という競争的な方策が本場に良いのでしょうか。競争の中でこそ農業の生産性が向上して規模拡大を進めることが本場にできるのでしょうか。

たしかに社会の協同や平等の環境下で村や町を発展させるという考え方が社会の構造変化の中で極小化してきたということなかもしれません。しかし、我が国の歴史の中では小作制度などの強者がリードしてきた農業形態を一旦転換するべく協同の成果を生んできた経過もあります。そのことが我が国の経済成長を支えて

きたわけですが、ここにきてまた優勝劣敗の形で進もうとしているのではないかと思わざるを得ない状況となつてきています。まさにそれを具体化しているのは「規制撤廃」で、協同を基底にしたJAの取り組みから農業者や集落の離脱が発生してきています。

この事態をどのように受け止めて、地域や国の全体力としての発展につながるのか、詰めて考えねばならないと思えます。

そして地域に根差すJAの取り組みを考えたとときに、どのように協同の取り組みを強めて農業者への成果を実現し、そして評価してもらえるのかどうか、徹底して詰めなければなりません。



▲JAグループ全国連賀詞交換会にて